

第7章 環境保全・啓発活動

—持続可能な社会を目指して—

国内の温室効果ガスの発生量は、2007年度時点で基準年に比べ9%も増加していますが、2008年から京都議定書の約束を履行する5年間の期間に入りました。また、国は中長期目標として2020年までに25%削減することを国際公約として発表し、この目標に向け新たな法整備をすすめています。

本市では持続可能な社会の実現に向け、市民への環境保全意識・活動の啓発等を実施しました。

こどもエコクラブの支援や環境教室・かたの環境講座の開催などの啓発・学習事業を展開するとともに、環境フェスタなど市民との協働の取り組みを推進しました。また、19年度より運用している環境マネジメントシステム（環境自治体スタンダード：LAS-E）により市役所の事務事業からの環境負荷を低減するよう取り組みました。

1. 環境教育

環境にやさしい暮らしを啓発するため、以下の事業を実施しました。

(1) こどもエコクラブの支援

環境省が実施している「こどもエコクラブ事業」に基づき、市内のこどもエコクラブに対して、クラブ間の交流や活動の支援、情報の提供等を行いました。また、年5回の「エコロジカルとれーにんぐ」や各クラブが実施する「エコロジカルあくしょん」の報告を受け、その活動内容を確認しアースシールを発行しました。

登録クラブ 7クラブ（平成21年3月時点）

クラブ名	クラブ員数	サポーター数
スマイルエコクラブ	18人	7人
天の川クラブ	15人	5人
ヒーローズリカパンマン	2人	1人
ひまわりエコクラブ	18人	6人
妙見坂小学校エコクラブ	16人	2人
たんぽぽエコクラブ	3人	3人
Mappall（マッパロ）エコクラブ	3人	1人

交野市こどもエコクラブ交流会

- ①「森の工作館」：森の中を散策しながら昆虫の生態、自然の楽しさ、不思議などを体感し、自然の大切さや環境・食物連鎖などを学びました。

実施日 平成20年7月28日（月）

場 所 府民の森「森の工作館」

参加者 15名（サポーター含む）

- ②「布ぞうりを作ろう」：古布を利用したオリジナル布ぞうり作りと、そのぞうりの活用を通して、リサイクルの学習と便利なエコ活動を実践しました。

実施日 平成21年3月25日（水）

場 所 交野市役所 別館3階

参加者 20名（サポーター含む）

(2) 夏休み環境教室

「紙ブーメランと夏の星空観察」

*夏の星空観察会は、雨の為に中止

紙ブーメランを作成し、その飛行を通じて自然の風や気流の流れを感じ取り、星空観察を通して空・空気の汚れについての学習を行いました。

実施日 平成20年8月5日(火)

場 所 星の里いわふね

(3) かたの環境講座

温暖化を始めとする環境問題への対策には、市民一人一人の足元からの行動が必要ですが、その重要性を認識してもらうことが最も難しい課題でもあります。その課題にひとりでも多くの市民に気付き、行動して頂けるよう環境問題を広く啓発し、また、環境保全活動のリーダーとなる人材を育成することを目的として、かたの環境講座を6回開催しました。大阪市立大学理学部附属植物園の協力のもと、フィールド学習もふんだんに盛り込んだ講座を実施しました。

- 第1回 平成20年7月26日(土) 10:00 から
「スパイダーウォッチング」
講師：追手門学院大学教授 西川 喜朗氏
受講者数17名
- 第2回 平成20年8月27日(水) 10:00 から
「森からのメッセージⅠ」～森にいかされている私たち～
講師：大阪市立大学大学院理学研究科講師 植松 千代美氏
受講者数29名
- 第3回 平成20年9月13日(土) 10:00 から
「森からのメッセージⅡ」～樹木は自然の空気清浄機～
講師：摂南大学薬学部教授 宮田 秀明氏
受講者数34名
- 第4回 平成20年10月18日(土) 13:00 から
「ネイチャーヒストリー」
講師：大阪市立大学大学院地球学科准教授 三田村 宗樹氏
受講者数20名
- 第5回 平成20年11月29日(土) 13:00 から
「秋の魔術師・紅葉の不思議」
講師：大阪市立大学大学院理学研究科講師 名波 哲氏
受講者数30名
- 第6回 平成21年1月31日(土) 13:00 から
「地域でやればここまでできる地球温暖化防止」
講師：特定非営利活動法人 環境市民 杵本 育生氏
受講者数31名



2. 市民との協働の推進

(1) かたの環境ネットワーク

自然環境・暮らしの環境について活躍をする個人や団体が集まり、官・民相互の交流と支援・連携を深め、交野の環境保全活動をより活性化することを目的に平成17年5月に13団体と1個人によって発足しました。毎月1回の定例会を中心に、団体間の情報交流や文化祭で環境保全をPRされています。

(2)環境フェスタin交野2009の開催

豊かな環境を次世代に伝えて行きたいと、市民・団体・事業者・行政が一体となり実行委員会形式により開催しました。

会場では、ブース展示、パネル掲示、環境セミナー、映画会、低公害車の展示・試乗があり、子どもから大人まで多くの参加者で盛況となり、環境保全の意識を啓発しました。また、広く市民から応募された環境ポスター・絵画も展示されました。更に今回のフェスタでは、「エコチャレンジ」をテーマとし、出展団体等にはそれぞれのエコチャレンジを掲げて頂き、また参加者はノーカーで来場するなど様々な試みを実施しました。

日 時 平成21年3月1日

場 所 星の里いわふね

参加者 約3,300名

3. 環境マネジメントシステムの構築・運用

すべての職員が、環境の視点を持ちながら業務に当たることを目指し、環境自治体会議のシンクタンクである環境政策研究所が、環境自治体と呼ぶにふさわしい自治体の目安として制定したLAS-E (Local Authority's Standard in Environment : 環境自治体スタンダード)に沿った環境マネジメントシステムを構築し、19年6月より運用を開始しました。

各職場における省エネ・省資源行動の徹底や、職員への研修(集合、職場研修)の実施、環境情報の市民への公表などLAS-Eの規格に沿った取り組みを進めました。

また、LAS-Eの特徴の一つでもある市民による監査が実施され、判定委員会による取組の可否判定を受けました。

(1)市民監査及び可否判定

市民監査：平成20年11月19日・20日・21日

○共通実施項目監査

設問数 957問

対象部局 75部局 個別監査 市長他31名

監査員 37名(市民18名、市職員17名、専門家2名)

可否判定：平成20年12月26日

○LAS-E実施項目判定(共通実施項目判定)

判定事務手続き・資料作成、判定委員会召集・開催、所見の発行等

結果：エコアクション部門(環境活動) 第1ステージ 合格

エコマネジメント部門(環境経営) 第1ステージ 合格

エコガバナンス部門(環境自治) 第1ステージ 合格

(2)目標達成状況

LAS-Eでは取組を実施するだけでなく、数値目標を立てることも要求されています。平成20年度の目標並びに結果は次のようになりました。

平成20年度 独自目標取組結果一覧

項目	H20結果	基準年値	削減率	目標	結果
電気使用量	4,375,093kwh	5,194,322(H16)	15.8%	3.6%削減	○
ガソリン使用量	49,523ℓ	50,892(H16)	2.6%	3.6%削減	○

軽油使用量	70,1530	70,901 (H16)	1.1%	3.6%削減	○
灯油使用量	192,5240	197,322 (H16)	2.9%	3.6%削減	○
LPG 使用量	32,583kg	41,125 (H16)	20.8%	3.6%削減	○
都市ガス使用量	78,781 m ³	125,449 (H16)	37.2%	3.6%削減	○
水使用量	70,229 m ³	83,384 (H16)	15.8%	3.6%削減	○
廃棄物の排出量	41,314 袋	30,531 (H18)	16.9%	10%削減	○
コピー用紙 (購入量)	3,638,185 枚	3,280,247 (H18)	△14.3%	削減	×
通勤時 環境影響の低減	ノーマイカー デー 月 1 回実施	—	—	月 1 回以上 実施	○
職員研修の回数	5 種 15 回実施	—	—	年 2 回以上 開催	○
実行責任者研修 の回数	4 種 5 回実施	—	—	年 2 回以上 開催	○
環境に関する 情報の提供	年 6 回以上提 供	—	—	年 6 回以上 提供	○

4. 第2期交野市エコオフィス率先行動計画の推進

平成 13 年 3 月に交野市エコオフィス率先行動計画（第 1 期）を策定し、省エネルギー・省資源による温室効果ガスの削減や環境に配慮した事務・事業を推進し、平成 18 年度からは当初より変化した行政組織に対応するため、また、更なる環境に配慮した行動を進めるために「第 2 期交野市エコオフィス率先行動計画」を策定しました。第 2 期交野市エコオフィス率先行動計画は、平成 18 年度から平成 22 年度までを計画期間とし、平成 16 年度を基準にして平成 22 年度までに温室効果ガスを 6%削減することを目標に定めています。また、計画の適用範囲は、市のすべての組織および施設を対象とし、関連する外部組織等も含み、市が行うすべての事務・事業を対象としています。平成 20 年度の結果は下記のとおりです。



(1) 平成 20 年度の取り組み結果

平成 20 年度取り組み目標	平成 20 年度取り組み結果	内 容
温室効果ガス排出量： 基準年比 3.6%削減	基準年比 11.5%削減 6,593,534kg-CO ₂ 削減	温室効果ガス排出原因の内、80%以上を占める電気使用量の削減によって、目標よりも大幅な削減を達成できました。
電気使用量： 基準年比 3.6%削減	基準年比 12.5%削減 2,096,441kwh 削減	各施設での省エネを徹底して行ったところ目標より大幅な削減を達成できました。
燃料の使用量 (ガソリン・軽油・灯油・LPG・都市ガス)： 基準年比 3.6%削減	ガソリン：11.1%削減 軽油：1.7%削減 灯油：2.9%削減 LPG：20.9%削減 都市ガス：44.2%削減	各施設での冷房運転の調整、保健福祉施設でボイラーから家庭用給湯器へ設備転換がありました。
水の使用量： 基準年比 3%削減	基準年比 29.1%削減 75,669m ³ 削減	幼稚園の漏水改善。各施設のトイレで擬音装置の活用。
廃棄物の排出量： 基準年比 3%削減	基準年比 16.9%削減 8,414 袋/45 ㍻・袋	紙のリサイクル徹底やプラスチック容器の分別などの取り組みにより、事務室の多い施設を中心に削減できました。

5. 他自治体などとの協力・交流

環境自治体会議

平成18年度から加入した環境自治体会議(1992年設立)は環境自治体会議をめざす自治体が、情報交換や相互交流、研究・実践活動を進める場として創られたネットワーク組織です。

第16回環境自治体会議ゆざ会議に参加しました。

- ① 日 時 平成20年5月28日(水)～5月30日(金)
- ② 場 所 山形県遊佐町
- ③ 内 容 5月28日 基調講演「ただの生きものの大切さ」

鼎談 「生きものと地域社会」

全国の環境自治体会議会員自治体首長スピーチ

子どもたちのポスターセッション

環境自治体会議総会

5月29日 12のテーマ(合意形成、自然観、気候特性と建築・エネルギー生命が生命を育む農業をめざして、市民監査への期待など)ごとに分科会を実施。

5月30日 分科会報告

